

令和4年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	将来の自立と社会参加を目指し、児童生徒一人一人の障害の特性などに応じた教育課程を通して、心身の調和のとれた発達を促し、心豊かにたくましく生きる児童生徒を育てる。
(2) 現状と課題	本校は知的障害がある児童生徒を対象とした小・中部を設置する特別支援学校である。カリキュラム・マネジメントによる教育課程の改善、教員の専門性向上と学び合いを支える教職員集団による教育力の向上、ICT活用による指導方法の充実、地域連携や交流及び共同学習の推進等を通じて、個々の障害特性に応じた学習環境を整え、指導の充実を図ることが求められている。また、感染症拡大防止を最優先としながら、対策を十分行い教育活動を停滞させない「八二養新学習スタイルプロジェクト(HSP)の推進にも取り組んでいる。
(3) 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 安全・安心な教育活動の取り組み</li> <li>2 「生きる力」を育む教育の推進</li> <li>3 教職員集団、保護者及び地域との連携に基づく教育活動の推進</li> <li>4</li> </ol>
(4) 結果の公表	集計結果について、保護者に対しては紙媒体で配布、教職員に対しては電子媒体を用いて職員会議で説明し、地域に対しては学校ホームページに掲載することにより周知する。

学校整理番号	特14
学校名	青森県立八戸第二養護学校
対象障害種別	視覚・聴覚・ <b>知的</b> ・肢体・病弱

自己評価実施日	令和4年12月9日(金)
学校関係者評価実施日	令和5年1月24日(火)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成

- ・学校評議員 6名

※元八戸第二養護学校校長、合資会社彩り工房代表、是川保育園園長、桂堂学園園長、うみねこ学園長、本校PTA会長

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	新たなレベル分類に応じた教育活動の推進	①「八二養新学習スタイルプロジェクト(HSP)」の充実を図る。 ②児童生徒自身が取り組む健康管理に対する意識の向上を図る。	・感染症対策委員会で感染防止対策の基準を策定して、集団での学びの展開についても段階的に緩和しながら教育活動を展開した。	A	・感染症対策をよく検討しながら、できる精一杯のところで工夫して児童生徒に関わっている様子が見られている。	・感染症の対応が変更になった場合でも、児童生徒の健康を守るための対策を講じ、できる限り集団での学習に努め、児童生徒の興味関心を広げる学習活動を展開していく。
2	授業の充実	①学んでほしいことを明確にした授業の展開 ②「指導内容表」に基づく妥当性のある指導 ③確かな学習成果につながる指導や手立ての充実 ④学習の成果を的確に捉え、授業改善を図ることのできる学習評価の充実	・目標を明確に立て、授業改善シートを活用して、授業を振り返り、日々の授業改善を行った。 ・学びの履歴チェックシートや指導内容表を活用するなど学びの系統性、連続性を確保するための取組が進んできた。	A	・先生方が話し合いをしっかりとってきた経過がある。 ・環境は児童生徒にとって大事なものであり、コロナ禍で以前のような充実した環境を用意するのが難しい状況ではあるが、児童生徒の学びを止めない工夫が素晴らしい。 ・可能な限り行事等での大きな集団での学びの機会を確保できるよう検討してほしい。	・作成した事例シートや指導内容表などを、単元計画や略案などに組み込みながら、「児童生徒がどう学んだのか」に視点を置き、児童生徒の視点に立った授業を構築していく。
3	教員の専門性の向上	①ICF関連図等の活用に基づく個別的教育支援計画等の的確な作成 ②授業でのICT活用による指導方法の情報共有 ③「特別の教科道徳」の評価指標を活用した実践の充実	・校内研究を通して、児童生徒の教育的ニーズに応じてICT機器を活用し、児童生徒の学びを充実させるための授業作りを行うことができた。	A	・授業を見ていて、昨年より分かりやすい授業になっていると感じた。 ・スクリーンやタブレット端末を使い、指導のねらいがはっきり伝わってきた。	・校内研究で得られた成果や課題点について、次年度の研究に関連させながら、研修の充実を図っていく。 ・特別の教科道徳の評価指標を活用した実践について、話し合いの機会を設け授業力向上を目指す。
4	信頼される学校づくりの推進	①学校における危機管理体制等の整備 ②学校運営に関する保護者への丁寧な説明と理解推進	・緊急時引渡訓練を実施し、保護者と協力して緊急時に備えて、方法や流れについて確認を行うことができた。 ・参観日などに学校運営に関する内容の説明やHPで学習の様子をアップするなどして理解の推進を図った。	B	・施設側からも、学校と細かな対応について相談しながら現実的に可能なところで支援を進めているところである。 ・情報交換を密にし、連携・協力を深めていくことが重要である。	・学校運営協議会を活用しながら、地域の方と一緒に学びを作っていくという観点で連携を深めながら、学校づくりを行っていく。
5	労働環境の改善	①勤務時間の適正化による業務改善の取り組み ②全教職員によるワーク・ライフ・バランスの積極的な取り組み	・勤務時間の管理を行い、超過時間を平均20時間程度に抑えることができた。 ・会議や打合せの日をあらかじめ設定し、振替や休暇を取得しやすいようにした。	B	・特になし	・学校組織のスリム化を目指し、重点課題と削減できる業務等の項目を整理しながら、業務改善に向けて取り組む。 ・年齢や経験年数など数値でバランスを確認しながら学校組織の編成を行う。

(11) 総括	保護者からの評価について、アンケートの回答結果から、全体として肯定的な回答群「よく出来ている」及び「出来ている」は2項目を除いて90%を超えており、評価は高いといえる。特に「学校は、事故防止に努め、非常災害時や事故発生時には、速やかに対応できるようにしている。」「学校は、諸会費などを適正に処理し、保護者に正確に伝えている。」は肯定的な回答群が100%であり、昨年よりも良い結果となった。一方「学校は保護者と話し合う時間を十分設けている。」「学校は、前年度担当者と適切な引き継ぎを行い、継続した指導や積み重ねをした教育を行っている。」「については、昨年度よりもポイントが低かった。その理由としては、新型コロナウイルス感染症感染防止対策で、学校への来校者数を制限するなどを行ったため、限られた時間での実施となったことが影響していることや、今年度は昨年度と学級担任が大幅に変わったことも影響したのではないかと考えらる。このことから、安全安心な学校環境を維持しながら、保護者との意見交換や連携を深めていくための方法を改善していく必要がある。また、教職員からの評価について、教職員の働き方改革については、「働きやすい職場になるよう学校全体で業務を見直し改善を図っている。」「学部および分掌間の連絡・調整が十分に図られ、効率的な教育活動を行っている。」「分掌組織は、年齢や経験等のバランスがとれ、適材・適所となっている。」において、昨年度に引き続き低い値が示されており、限られた人材の中での校務の効率化や適正化、業務の見直し・改善について、職員が一致団結して取り組んでいくことが必要である。そのためには、具体的な目標を掲げ、目標達成に向けた計画を作成して改善に取り組んでいく必要がある。
---------	--